

図書館におけるアピアランスケア起業促進事業

草階 彩香（札幌市中央図書館）

1. はじめに

平成 30 年（2019）10 月に札幌市図書・情報館が開館する。この図書館はビジネス支援サービスをメインにした課題解決型図書館である。本稿は第 16 回ビジネス・ライブラリアン講習会の修了レポートであるが、講習で学んだことを取り入れて、札幌市・図書情報館において実現可能な事業案となることを目指してまとめる。

2. 札幌市図書・情報館の特徴

札幌市図書・情報館は貸出機能に重点を置いた既存の図書施設とは異なる、調査相談・情報提供に特化した図書館である。JR 札幌駅と大通公園の中間地点という札幌市の都心部に複合施設として建設中である。札幌市役所や札幌商工会議所に隣接し、従来のオフィス街と近年の新たなまちづくり重点地区の間に位置している、札幌市の経済の中心と呼んでも過言ではない場所に図書館が開館するのである。

現在札幌市の図書館は市内全 10 区各区に 1 館ずつ整備され、小規模な図書室も含めると計 46 施設を有する。しかし都心部には蔵書を持たない予約貸出カウンターのみしかない。そこに新たなコンセプトを掲げた札幌市図書・情報館が開館する。

図書・情報館の主な利用者ターゲットは札幌市内のビジネスパーソンである。蔵書は①マーケット情報、起業情報、様々な業界の専門書など「仕事」に役立つ資料(WORK)、②医療・健康、法律を中心とした「くらし」の課題解決に役立つ資料(LIFE)、③「文化芸術」に関する資料(ART)、④札幌の魅力を発信する資料(地域資料)の 4 分野で構築される。総蔵書数は約 40,000 冊の中規模な図書館になる。資料は貸出をしない。返却待ち・予約待ちに左右されない、「いつ行ってもほしい情報が入手できる」という図書館を目指している。さらに、これまで札幌市中央図書館で行なってきた起業セミナーや、ビジネスパーソンの興味・関心をひくようなイベントを月 2 回程度のペースで開催する予定である。

今回の講習会の事前課題として、これらの立地条件と特徴的なサービスおよび蔵書構築を最大限に生かしてターゲットを絞った起業・創業支援サービスができないか考えたのが、これから提案する事業の発端である。

3. がんを取り巻く札幌市の現状

現在、日本人の 2 人に 1 人は生涯のうちにがんと診断され、4 人に 1 人ががんによって死亡すると推計されている⁽¹⁾。平成 29 年（2017）6 月には肺がんの死亡率が北海道内の男女ともに全国で 1 位であったことが発表された⁽²⁾。札幌市におけるがんによる死亡者数も年々増加が見られる⁽³⁾。このような状況を踏まえ、札幌市は平成 29 年（2017）年 3 月に『札

幌市がん対策推進プラン』を策定した。重点施策は①がん予防、②早期発見・早期治療、③がん患者及びその家族等への支援、④がんに関する正しい知識の普及啓発、⑤がん教育の5つである。

北海道の「都道府県がん診療連携拠点病院」は札幌市白石区の北海道がんセンターである。「地域がん診療連携拠点病院」も、北海道内 22 病院中 8 病院が札幌市内に集中している。これは札幌市にがん治療のために人が集まってくることを意味する。

これを地域ビジネスの種を考え、着目したのがアピアランスケア（見た目・容姿の変化に対するケア）である。がん治療の経験者が社会復帰をするのにあたって困ったことは「外見の変化」が全体の 48.5%という意識調査結果⁽⁴⁾がある。特に女性の場合は 59.5%と高い割合である。「外見の変化」が患者には大きなストレスになり社会復帰の妨げになるということが証明されたのである。がん治療による外見の変化だけに限ったことではないが、アピアランスケアの正しい情報は入手がしづらく、必要な人が必要な時に得ることは困難だと言われている。アピアランスケアは病気になり治療を進めていく中でも、その人がその人らしく前向きに生きてもらうことを目的とし、それは結果的に社会復帰へつながる。これは図書館で行なうと社会貢献事業となりがちだが、理美容業界・福祉業界・服飾業界などへのアプローチを考えると、図書館発信の地方創生事業になりうると考える。

4. 事業案

アピアランスケア・医療美容に関する起業セミナー

①アピアランスケア実演セミナー

メイク（肌、眉毛など）、医療用ウィッグ、ネイルなど実演を踏まえた講習会。

②アピアランスケア起業セミナー

実際にケア用品を開発して販売している企業、NPO、法人、個人による開発～起業・販売までの事例報告講演会。また、実物を展示して普及を促す。

③個別相談会

医療美容系の起業を考えている方への起業相談会。起業セミナーを開催している外部団体と連携し開催。個別に具体的な相談を受け付ける。

④起業講座

③を受講した方を優先に、事業計画書の書き方や資金調達・補助金申請についてなど、起業に関する勉強会を、回数を重ねて行う。

①②はオープン制で行う。ターゲットは幅広い。札幌市は理美容師が多く、理美容業界が盛んな地域である⁽⁵⁾。理美容業界に従事している方々（理美容師、メイクアップアーティスト、ネイリストなど）、国家資格は取得しているがしばらくブランクのある理美容師

の方々のニーズ発掘が見込めると考える。起業イベントではあるが、がんの治療と仕事の両立を目指すがんサバイバーの方々、またそのご家族や支援者も対象にする。これはがんサバイバーの就労支援にもなると考える。さらに理美容専門学校にも積極的に広報し、将来独立を意識するであろう学生の参加を促す。

①②を図書館で行なう理由は豊富な情報が一堂に揃っていることである。起業に関する本、専門紙・専門誌、マーケット情報はもちろん、エビデンス（科学的根拠）のある医学書も所蔵している。美容業界に関する資料、化粧品の成分に関する資料、デザインに関する資料なども所蔵している。商用データベースを利用した情報も入手できる。これらすべての情報が一堂に揃っている場所は図書館以外に思い当たらない。図書館を最大限に活用してもらえらる可能性があるのである。

③④は応募制で行う。さっぽろ産業振興財団の起業支援機関連携講座のような、すでに起業セミナーとして開催されているものに図書館が参加し、共催で開催する。①②よりも具体的に、起業を実現可能なものとするための相談会と講座である。③の相談会には司書が2名同席し、相談内容に則した資料を即時に提供する。④は定員を10名程度に設定し、少数精鋭で起業に必要な知識を学ぶ場を設ける。事業計画書の書き方、創業時の手続きや法律に関する知識の習得、SNSを使った販路開拓など全4回程度の講座にし、講師は外部連携先をお願いする。司書は起業に関する資料を展示、パスファインダーの作成、図書館において必要な情報を入手するための調べ方案内などを行う。

③④を図書館で行なう理由は敷居の低さにある。図書館であれば人目を気にする必要もなく、何度でも利用ができる。土曜日曜に起業相談会を開催している団体は増えてきているものの未だ少ないので、その点でも図書館での開催には集客が見込める。札幌市では平成26年（2014）3月に『札幌市創業支援事業計画』を策定している。そこに「特定創業支援事業」⁽⁶⁾という取り組みがあり、その事業に図書館が参画していく方法もある。行政の政策と図書館が連携して、地域経済の活性化を図るのである。他都市では珍しくない構図かもしれないが、札幌市ではこれまで大きな活動はしてこなかったため、今後は行政との連携を強めていく必要がある。

5. 効果

この事業は札幌市が目指す「札幌経済を発展させる創業の推進と人材の育成」が見込める⁽⁷⁾。また、間接的に働く世代のがんサバイバーへの支援となり、治療と仕事の両立や再就労が期待される。安定した雇用の確保と、ライフプランの安定による人口定着により「がんになっても安心して暮らせる社会」⁽⁸⁾を構築することができる。

図書館に着目して効果を考えると、この事業を通じた図書館におけるビジネス支援サービスのアピールがあげられる。図書館のビジネス支援は行政にも市民にも認知されていないのが現状である。図書館のイメージにビジネス支援が根付いていないのである。病気と

いう誰にでも起こりうる生活に密着したテーマで起業セミナーを行い、医療・健康情報サービスの取り組みではなく、ビジネス支援サービスの取り組みであることを新聞・SNSなどのメディアを通じて発信していくことが必要だと考える。そしてさらにこの起業促進事業から起業成功者が現れた際には、図書館を利用した体験談を講演してもらうなどの発展が考えられる。また、この取り組みを基本モデルとすれば汎用性が生まれる。これまでは図書館は病気に関する知識を身につけるための情報を提供するに留まっていたが、市民には闘病中や病気が治った後の生活があることに着目すべきである。アピアランスケアは病気になった市民の生活のほんの一部を支えるに過ぎない。病気になった市民の生活へ寄り添うビジネスの種を考えると、同じ病気の人との交流の場を創出したり、患者や患者家族の心のケアをしたり、運動療法やリハビリテーションで患者を支えたり、そもそもアピアランスケアは多種多様なアプローチができるので別の切り口を提案することもできる。そしてどんなビジネスの種にも役立つ情報を図書館は提供することができる。図書館という公共施設から患者の生活に密着したテーマを発信することで、地域の経済発展に寄与していけると考える。

6. おわりに

ビジネス利用のために図書館へ訪れる利用者はすでに一定数いるが、今後は図書館がビジネスパーソンにも役立つ場所であることをもっと浸透させる必要があると考える。絵本や小説を無料で借りられる場所、学生が勉強に利用する場所、高齢者が余暇を豊かに過ごすための場所というイメージの他に「ビジネスや生活に役立つ情報が揃っている場所」というイメージが定着してほしい。これからの図書館は情報拠点となる。今回の講習会にて、企業も行政も個人も「自己判断 自己責任」の時代に迫られている・判断するためには情報が必要不可欠であるというお話があった。自分で判断するための情報を図書館で入手できると体感してもらうには最適な時代であると言える。これまでの貸出サービスやアーカイブ機能に加えて、情報収集のための図書館利用を増やしていかなければ、図書館はインターネットに負けてしまう。インターネットの手軽さ・速報性・利便性の高さには敵わないが、図書館では信憑性の高い情報が入手できるのである。入手した情報から「自己判断」するのは利用者であるが、その判断材料・選択肢となる情報を提供するのが図書館であり、そして司書である。

情報拠点という新たなイメージを定着させるには、司書が図書館で待っているだけでは叶わない。司書は情報探索能力を常に研鑽し続け、必要な情報源を図書館に揃えるための知識を磨き、市民に揃えた資料を提供することで最大限に活用してもらわなければならない。そのためには図書館の役割を発信し、実績を積み、行政機関・専門機関と連携することで相互に発展していく必要がある。情報が溢れている現代に図書館が存在する意義を見出すためにもビジネス支援サービスを浸透させていきたい。

-
- (1) 国立がん研究センター>がん統計
「2.がん死亡 5)がんで死亡する確率～累積死亡リスク(2015年データに基づく)」
「3.がん罹患 5)がんに罹患する確率～累積罹患リスク(2013年データに基づく)」
http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html
 - (2) 厚生労働省『平成29年度人口動態統計特殊報告 平成27年都道府県別年齢調整死亡率(人口10万対)・順位—平成27年—』
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/other/15sibou/dl/10.pdf>
 - (3) 札幌市保健福祉局保健所健康企画課『札幌市衛生年報 平成27年』
「2.人口動態編 第3章死亡 17.主な死因別死亡確率の推移」
<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/f9sonota/eiseinenpou2015.html>
 - (4) メディカルメイクアップアソシエーション『がん患者と一般生活者のがん治療における見た目の悩みに関する意識調査』2017年(マイナビニュース 2017/02/13「がんの化学療法による「外見の変化」、日常生活に与える影響は?」)
<https://s.news.mynavi.jp/news/2017/02/13/163/>
 - (5) 厚生労働省『衛生行政報告例 平成27年度』
「統計表8 生活衛生関係施設(者)数、都道府県—指定都市—中核市(再掲)別(4-4)」
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/15/dl/toukei.pdf
 - (6) 『札幌市創業支援事業計画』 <http://www.city.sapporo.jp/keizai/center/plaza.html>
「特定創業支援事業」とは札幌市または認定連携創業支援事業者が創業希望者等に行う継続的な支援で、経営、財務、人材育成、販路開拓の知識が全て身につく事業のこと。
 - (7) 札幌市経済観光局産業振興部『札幌市産業振興ビジョン改訂版 平成28年度～34年度』
<http://www.city.sapporo.jp/keizai/top/keikaku/vision.html>
 - (8) 札幌市保健福祉局保健所健康企画課『札幌市がん対策推進プラン』
<http://www.city.sapporo.jp/eisei/kenkozukuri/gantaisaku/gantaisaku.html>

<参考文献・参考 URL>

1. ビジネス支援図書館推進協議会『第16回ビジネス・ライブラリアン講習会テキスト』, 2017年
2. 猪谷千香『町の未来をこの手でつくる 紫波町オガールプロジェクト』幻冬舎, 2016年
3. 国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター
<http://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/appearance/>
4. 東京都福祉保健局「がん患者さんとそのご家族へアピアランスケアに関する情報ページ～外見の変化が心配なときに～」
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryoy/iryo_hoken/gan_portal/chiryou/appearancecare.html
5. 特定非営利活動法人キャンサーリボンズ
<http://www.ribbonz.jp/index.htm>

-
6. 特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン「化学療法をしたみんなに脱毛のことを聞いてみた」<http://www.cancernet.jp/datsumou/prepare>
 7. 日経新聞 2016/10/16 朝刊「がんサバイバー起業する」
<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO08258160S6A011C1945M00>
 8. 織研新聞電子版 2016/10/14 「がんサバイバーの元バイヤーが新事業」
<https://senken.co.jp/posts/cancer-surviver-newbusiness>